

平成30年産農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔平成30年12月25日
十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
北海道十勝総合振興局〕

1 考え方

本集計は、平成30年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合の取扱見込額について、農協ごと
に試算した概算値の集計であり、商系取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいない
ことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、直接支払交付金、生乳生産者補給金を含むが、産地交付金、農業共済金支払額は
含まない。

2 平成30年の概要

農協取扱高は、耕種部門は減収、
畜産部門は増収し、
3,320億円（前年比98%）

◇耕種部門取扱高◇ 1,269億円（対前年比 91%〔構成比38.2%〕）

本年は、融雪が早く、春作業が順調に進んだ。その後6月以降ぐずついた天候が続き、7月
には台風による大雨、8月には前線の停滞による長雨に見舞われたことから、農作物全般で、
収量及び品質に影響した。

- 小麦は、6月中旬以降の多雨・低温・日照不足などが影響し、収量が前年に比べ大きく下
回るとともに、品質の低下も見られたことから、前年比26%減。
- 豆類は、小豆、いんげんで価格が上昇したが、6月の天候不順により総じて収量が前年を
下回るとともに、大豆で作付面積が下回ることから、前年比7%減。
- ばれいしょは、収穫作業が順調に進んだが、6月中旬以降の天候不順の影響により、肥大
不足で減収となったことから、前年比7%減。
- てんさいは、9月以降好天に恵まれ、平年並みの単収、前年を上回る糖度を確保したが、
作付面積が前年を下回ったことから、前年比8%減。
- 野菜は、多くの品目で天候不良により減収となったものの、市況価格が堅調に推移したこ
とから、前年比19%増

◇畜産部門取扱高◇ 2,051億円（対前年比103%〔構成比61.8%〕）

- 酪農は、1年を通して前年を上回る生乳生産を維持するとともに、乳価の上昇、子牛等の
価格の好調により、前年比3%増。
- 肉用牛は、枝肉価格や素牛取引価格が堅調に推移したことから、前年比2%増。

3 取扱高集計結果

（単位：億円、%）

区分		平成30年（概算値）		平成29年（概算値）		対前年比	
		取扱高	構成比	取扱高	構成比	増減額	前年比
耕種	麦類	281	8.5	379	11.2	△98	74
	雑穀・豆類	186	5.6	200	5.9	△14	93
	ばれいしょ	259	7.8	280	8.3	△21	93
	てんさい	306	9.2	332	9.8	△26	92
	野菜	232	7.0	195	5.7	37	119
	その他	5	0.1	6	0.2	△1	83
小計	1,269	38.2	1,392	41.1	△123	91	
畜産	酪農	1,285	38.7	1,244	36.7	41	103
	生乳	1,093	32.9	1,042	30.8	51	105
	肉用牛	736	22.2	720	21.2	16	102
	豚・鶏	15	0.4	16	0.5	△1	94
	その他	15	0.4	16	0.5	△1	94
小計	2,051	61.8	1,996	58.9	55	103	
総合計		3,320	100.0	3,388	100.0	△68	98

※ 取扱高は税抜き。